

神林平和祈念式典

が行われます。

過去の悲慘な戦争を風化させることなく後世に伝えるため、

さらには永遠の平和を祈念するため、神林平和祈念式典を下記のとおり開催します。

日時:8月16日(土)

午前8時30分～9時15分



場所:神林神社南側 平和祈念碑前

式典内容

- (1)開式の辞
- (2)黙とう
- (3)式辞
- (4)市長メッセージ
- (5)来賓紹介
- (6)碑文朗読
- (7)平和への願い朗読
(小中学生代表各1名)
- (8)献花
- (9)閉式の辞

平和祈念碑とは

昭和28年に神林保育園南側に移築されていた「神林英霊塔」は、長年の風化により崩壊寸前の状況でした。そこで、町会連合会、遺族会の協力のもと、地区を挙げて改修に取り組むこととなりました。

地区内の多くの皆様のご寄付と関係者の皆様のご尽力により、戦没者及び開拓物故者123柱の英霊を偲び、永遠の平和を祈念するシンボルとなるよう名称を「神林平和祈念碑」と改め、建立されたものです。

終戦60年という節目の年の平成17年8月15日に竣工祝賀式とともに、初回の「神林平和祈念式典」が開催され、今に繋がられています。

裏面碑文もご覧ください。

碑文

明治の日清・日露の戦争から太平洋戦争の終結に至るまで、数多くの人々が出征しました。出征兵士の中には、父母を思い妻や子を案じ、再び郷里に帰れることを夢見ながらも、護国の礎となられた多くの方々がおられました。また、満蒙開拓団として送り出され、異郷の地で一命をおとされた開拓者もおられました。痛恨の極みであります。

昭和二十年八月終戦の日本は、平和憲法の下、民主的政治と経済の発展により、平和で恵まれた社会を築いて参りました。満ち足りた生活や時の流れは、過去の戦争の過ちと悲惨さ、そして幾多の尊い犠牲者がいた歴史が風化しつつありますが、決して忘れてはなりません。

終戦六十周年を迎えるにあたり、尊い身命を護国のために捧げた御霊よ永遠に安らかなれと祈念するとともに、これを教訓として、再び悲惨な戦争をしてはならないという誓いを新たにいたします。

地域の皆様様の暖かいご寄進をいただき、恒久平和への切なる願いを込め、ここに平和祈念碑を建立するものであります。

平成十七年八月十五日

神林平和祈念碑建立実行委員会